

令和6年度

大子町教育行政点検評価に関する報告書

令和7年3月

大子町教育委員会

【 目 次 】

- 1 教育行政の点検及び評価について
- 2 主な事業の点検評価について
 - (1) 学校教育担当
 - ① 筑波大学との連携による学力向上推進事業
 - ② **chrome book** 教員向け研修会
 - ③ 大子町教育ポータルサイト運用
 - ④ 教育振興大会
 - ⑤ 児童生徒読書推進事業
 - (2) 生涯学習担当
 - ① 大子清流高等学校国際交流補助金
 - ② 放課後子ども教室推進事業
 - ③ 図書館「プチ・ソフィア」の管理運営
 - ④ 大子町スポーツ協会補助金
 - ⑤ 下野宮ふれあい広場運営委員会補助金
 - (3) 学校給食センター
 - ① 施設整備の維持管理事業（炊飯業務委託）

1 教育行政の点検及び評価について

(1) 点検及び評価の実施

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定に基づき、大子町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行いました。

(2) 実施方法

大子町教育行政点検評価委員会設置要綱第3条の規定に基づき委嘱された委員が事業を選定し、点検及び評価を行いました。

(3) 報告及び公表

評価結果の内容については、議会に報告後、公表します。

2 主な事業の点検評価について

令和5年度に実施された事業について、教育委員会事務局学校教育担当、生涯学習担当、学校給食センターからのヒアリングの結果を基に、事業を選定し点検及び評価を行いました。

(1) 学校教育担当関係

① 事業名 筑波大学との連携による学力向上推進事業

今後の方向性	継続
事業の内容	
<p>○筑波大学オープンキャンパス</p> <p>大子町内の中学生が筑波大学を訪問し、最先端の高等教育施設見学や、研究室見学を実施することで、上級学校への見識や興味・関心を高め、自己の生き方や進路選択に関する考えを深める目的で実施した。中学生が8名参加し、筑波大学教授や学生らによる授業体験や施設見学を行った。生徒は、体験を通して、本事業のねらいに迫ることができた。</p> <p>○夏休み理科おもしろ実験教室</p> <p>理科に対する興味関心を高め、教育の充実と学力向上に資することを目的として筑波大学教官及び学生による自由参加方の実験教室を開催した。小学校1年生から6年生の計22名が参加した。1・2年、3・4年、5・6年のコースごとに発達段階に合わせた実験を行った。</p> <p>○筑波大学留学生との交流</p> <p>留学生との交流を通して、広い視野をもち、異文化理解とこれを尊重する態度や異なる文化をもった人々と共に生きていく力の育成を図ることを目的として実施した。生瀬小中の児童生徒58名と、留学生の10名が7月と11月に交流した。</p>	
評価の内容	
<p>筑波大学との連携事業については、大子町の教職員の指導力向上のための重要な事業の一つであり、他市町村にはない意義のある事業である。</p> <p>留学生との交流や最先端の教育施設の見学は、自己の進路に強い影響を及ぼすこととなり、それぞれの将来の目的を達成するため、上級学校への見識を深め、必要な学力向上へとつながると考える。</p> <p>また、今後は単発の研修、授業ではなく、年間を通して指導に当たってもらい、児童生徒及び教職員が様々な知見を身につけられるようにしていただきたい。</p>	

(1) 学校教育担当関係

② 事業名 chrome book 教員向け研修会

今後の方向性	継続
事業の内容	
<p>町内の小中学校における教職員の ICT 活用力の向上を目指し、研修会を実施した。講師は、EDL 株式会社に依頼し、各校に教職員 1 名以上の参加を求めた。</p> <p>研修会は年間で 3 回実施し、初級・中級・上級とカテゴリーに分けステップアップする形式で行った。</p> <p>授業における ICT 端末の活用の仕方や、Google Workspace for Education の活用方法などを研修することで、教職員が校務や授業で使える技能を身に付けることができた。多くの授業で Google のアプリの共有機能を活用し、リアルタイムで児童生徒が情報共有できる機能が活用されている。グループで調べ学習をした際のまとめや発表に役立っている。また、児童生徒が学習内容に興味・関心を持つことができるような課題提示の仕方等も学ぶことができた。</p>	
評価の内容	
<p>小学校学習指導要領「総則」の解説に「慣れ親しませることから始め」とあるように、低学年の段階からコンピュータなどの情報手段を身近な道具の一つとして、操作を体験したり、楽しさを味わわせたりすることにより、親しみを持ち、抵抗感なく使うことができるようにすることが求められている。教育現場において、ICT 機器を用いた教育が主流となっていることから、ICT 機器を身近な道具として、有効に活用することにより、各教科の目標達成のために学習効果を高めることが可能と考える。</p> <p>常に必要最低限の技術を身につけていることが求められる教職員は、日々進化する機器やアプリケーションを学べる機会として、児童生徒のために今後も研修会を実施していくべきである。</p> <p>また、ネット社会の陰の部分配慮し、児童生徒を守るためにも、セキュリティ面を常に整備し、安心して活用できる環境を今後も整えて欲しい。</p>	

(1) 学校教育担当関係

③ 大子町教育ポータルサイト運用

今後の方向性	継続
事業の内容	
<p>各学校、幼稚園及び教育施設等の情報を発信できる大子町教育ポータルサイトを運用する。</p> <p>各学校、幼稚園及び教育施設等がそれぞれのページを持ち、そこに日々の教育活動や特色ある取り組みについて記事を作成する。トップページには、全小中学校、幼稚園及び教育施設の一覧を表示し、サイトを訪れた人が、自由に見て回ることができるようになっている。ポータルサイトを起点とした学校等の情報発信を行い、開かれた学校づくりを目指している。</p>	
評価の内容	
<p>ネット社会が進展する中で、小中学校及び幼稚園の情報発信と情報の共有には、この事業が大きく影響していると思う。教育現場での情報発信は開かれた学校づくりには、なくてはならないものとなっている。地域の方や保護者の方々が、紙媒体よりも早く手軽に児童生徒の日々の活動の様子を見ることができる便利なツールである。</p> <p>今後もポータルサイトの運営には、セキュリティ対策をしっかりと行い、常に最新のものを取り入れながら、今後も日々の活動の様子を発信して行って欲しい。</p>	

(1) 学校教育担当関係

④ 事業名 教育振興大会

今後の方向性	継続
事業の内容	
<p>令和5年度から事業縮小のため大会は開催せず、大会要項及び表彰等運用基準に基づき、被表彰者を決定して表彰のみを行った。</p> <p>被表彰者の内訳は、勤務30年以上の教職員が5名、特に教育振興に功績のあった者が14名、優良団体等が4団体の、合計19人4団体となっている。</p> <p>各学校から表彰候補者を推薦してもらい、表彰状の交付はそれぞれの学校で学校長から行った。</p>	
評価の内容	
<p>大子町は、児童生徒数減少が、今後も課題であり、このような中だからこそ、教育振興へ功績のあった方への町から感謝を伝える場として大切にしてほしい。表彰を行うことにより、時代の進展に対応する教育文化の発展向上と教育関係者間の協力体制につながる。</p> <p>また、大会は人と人、地域と学校、市町村同士のつながりをより強いものとすることから、多くの方に町内にいるすばらしい人材を知ってもらう良い機会となるため、実施方法の検討も含め、今後も継続して欲しい。</p>	

(1) 学校教育担当関係

⑤ 事業名 児童生徒読書推進事業

今後の方向性	継続
事業の内容	
<p>児童生徒が読書に親しみ、読書活動を通じて国語力の向上と心の教育の充実を目的に事業を実施した。</p> <p>○うちどく（家読）の推進</p> <p>さはら小学校と大子中学校をうちどく（家読）推進指定校とし、学校ごとに読書推進活動を計画・実施した。</p> <p>○大子町読書感想文コンクール</p> <p>児童生徒から読書感想文を募り、最優秀賞3名、優秀賞7名を表彰した。また、最優秀賞を受賞した児童生徒は、読書集会における表彰と、作品の朗読発表を実施した。</p> <p>○読書集会</p> <p>まいんの文化ホールにて、町内の小学5年生と中学1年生が参加し読書集会を実施した。読書感想文の表彰・作品朗読の他に、読書講演会を開催した。講演会の講師には筑波大学附属学校の図書館司書を招き、読書に親しむためのワークショップを実施した。</p>	
評価の内容	
<p>「読書のまち」宣言の大子町であるからこそ、この事業は大切である。読書離れが進んでいるなか、ページをめくりながら文字を追って読む読書は、児童生徒の学力向上と心の発達に繋がると考える。各学校でも、家庭の読書（うちどく）を推進しており、児童生徒の未来に光となる一助になると考える。</p> <p>読書は、表現力・読解力・語彙力を高めると言われていることから、今後はさらに読書集会やワークショップなどの機会を増やし、各種コンクールを実施するなど、本を読む機会、本に興味を持たせる機会を作ることにも視野に入れ継続して欲しい。</p>	

(2) 生涯学習担当関係

① 事業名 太子清流高等学校国際交流補助金

今後の方向性	継続
事業の内容	
<p>本事業は、タイ王国の高校生との交流を通じ、互いの文化にふれあうことにより、友情を深め、国際的視野を持った人材の育成することを目的としており、太子清流高等学校とカセサート大学附属高校（タイ王国）における国際交流事業に対する補助金である。</p> <p>1 カセサート大学附属高校生徒の受け入れ</p> <p>(1) 期間 令和5年10月17日～10月26日（10日間）</p> <p>(2) 人数 生徒4名 教員2名</p> <p>(3) 内容 歓迎会、歓送会、さよならパーティー 授業参加、日本文化の学習、町内での交流、見学</p> <p>2 太子清流高校生徒の訪問</p> <p>(1) 期間 令和5年12月13日～12月22日（10日間）</p> <p>(2) 人数 生徒4名 教員2名</p> <p>(3) 内容 歓迎会、学校施設案内、タイについての学習 授業参加、市内名所見学、料理・舞踊・文字・スポーツ交流</p>	
評価の内容	
<p>互いの文化に触れ合うことができる国際交流には、自分の地域社会や文化を見つめ直させることができる力があり、言葉や生活習慣を超えた親交を得て国際的視野を持った人材育成に役立つ力がある。</p> <p>また、令和7年度から、太子町の中学校が1校になることを考えると、今まで以上に中学校と太子清流高等学校の結びつきが深くなると考える。この事業を太子清流高校のみではなく、保育所、幼稚園から高等学校までの12年から15年を見据えた児童生徒育成として、事業を拡大していくべきであると考えます。</p>	

(2) 生涯学習担当関係

② 事業名 放課後子ども教室推進事業

今後の方向性	継続
事業の内容	
<p>本事業は、家庭、地域、学校及び行政の連携のもとに、放課後の子どもたちが学校から自宅へ帰宅するまでの間、安全かつ安心して過ごすことができる居場所を提供することを目的に実施している。</p> <p>大子町立の各小学校においては、週5日で、下校時刻から午後6時までの時間で実施しており、茨城県立大子特別支援学校（令和5年度未実施）は、週3日で、下校時刻から午後4時50分までの時間で実施する予定である。</p> <p>○利用児童数</p> <p>だいが（53人）、依上（47人）、さはら（20人）、生瀬（29人） 袋田（41人）、上小川（22人）</p> <p style="text-align: right;">計 212 人</p>	
評価の内容	
<p>放課後、子供たちが安全かつ安心して過ごせる場を提供することは子供たちだけではなく、親、家族も大変心強く、保護者の働きやすい環境づくりに寄与し、子供たちが学校生活とは違う学び、遊びの中で大人（サポーター）との交流も将来を担う心豊かな人を育む大切な場所となっている。</p> <p>また、学校の宿題やプリント等の指導も行われ、保護者からも評価が高い。引き続き子供たちの安全安心に努め、放課後の居場所を提供して欲しい。</p>	

(2) 生涯学習担当関係

③ 事業名 図書館「プチ・ソフィア」の管理運営

今後の方向性	継続
事業の内容	
<p>図書館「プチ・ソフィア」については、読書活動を推進し、読書を通じて心の豊かさを育てることを目的に管理及び運営を行っている。</p> <p>運営に当たっては、読者のニーズに対応した図書の購入及びお勧め本等の購入を図るとともに、インターネットを利用した蔵書の検索ができるシステムの運用を行っている。</p> <p>開館時間や休館日、蔵書及び来場者数については、次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none">1 開館時間 10:00～18:002 休館日 月曜日、木曜日、年末年始3 利用人数 7,913 人4 貸出冊数 26,961 冊	
評価の内容	
<p>図書館プチ・ソフィアは、大子町の唯一の図書館であり、読書のまち宣言をしている大子町には、その存在は大きい。</p> <p>書籍の導入にあたっては、読まれている本の傾向を研究し、読者のニーズに対応することが重要であると考えます。</p> <p>図書館プチ・ソフィアについては、施設の場所が分かりにくいという課題があり、場所を文化福祉会館「まいん」や中央公民館等に移設し、町民が気軽に本を手にすることができるようにしたり、休館日を週に1日にしたりするなど工夫が必要であると考えます。</p>	

(2) 生涯学習担当関係

④ 事業名 大子町スポーツ協会補助金

今後の方向性	継続
事業の内容	
<p>本協会は、町民の体育振興と各種団体の健全な育成強化を図り、スポーツを通じ会員相互の親睦とスポーツ文化社会の建設に寄与することを目的に運営している。</p> <p>補助金については、各団体の加入者数及び年間を通しての事業開催の回数、参加者数等により各団体に配分している。また、加盟団体により、奥久慈大子湯の里マラソン大会における競技役員の支援をしている。</p>	
評価の内容	
<p>大子町は少子高齢化が進み、スポーツ人口が減少する中、各種加盟団体は、独自に大会や講習会を開催し、町民の心身の健康に大きく寄与している。</p> <p>町民の健康維持、スポーツ振興にとって、大子町スポーツ協会は重要な団体であるため、今後も大子町スポーツ協会への支援は継続すべきである。</p>	

(2) 生涯学習担当関係

⑤ 事業名 下野宮ふれあい広場運営委員会補助金

今後の方向性	継続
事業の内容	
<p>旧下野宮小学校グラウンドに整備したグラウンド・ゴルフ場等を維持・管理するため、下野宮ふれあい広場運営委員会を組織しており、同委員会の運営に係る費用（除草に係る燃料費や作業謝礼等）に対し補助金を交付している。</p>	
評価の内容	
<p>大子町は、小中学校の統廃合が続いており、令和6年度も廃校となる学校があり今後の管理が課題である。</p> <p>旧下野宮小学校内に設置してあるグラウンドゴルフ場は、町内のグラウンドゴルフ愛好者が年々増加している中、専用のグラウンドゴルフ場として地域の方々から重宝されている。また、グラウンドの整備だけでなく、花壇等も整備されており地域の環境美化にも寄与している。</p> <p>廃校の維持管理には、相当な労力を要し、地元委員会等の協力は不可欠な状況である。廃校の維持管理をしている団体への支援は継続して行って欲しい。</p>	

(3) 学校給食センター関係

① 施設設備の維持管理事業（炊飯業務委託）

今後の方向性	継続
事業の内容	
<p>年々炊飯加工事業から撤退する業者が増え、炊飯を委託することが困難な状況となっていることから、安定した米飯の供給のために炊飯センターを建設することとなった。</p> <p>炊飯センター建設に合わせて学校給食炊飯業務を委託し、委託内容には災害時等における炊飯業務を含める。</p> <p>プロポーザル方式による業者選定を行い、契約期間3年の予定で、令和5年9月から米飯提供を開始する。</p>	
評価の内容	
<p>少子高齢化が進み、児童生徒の数が減少しているからこそ、児童生徒を大切にす る大子町でなければならない。</p> <p>児童生徒の健全育成のためには、食の安全・安心、バランスのとれた食事の安定 供給が今後の学校給食の役割として重要であり、学校給食には大子産の米を生かし た米飯はなくてはならないものである。</p> <p>また近年、日本国内でも災害が多く発生し、有事の際に町民の食を確保する上で も、炊飯業務は大変重要な事業であるので、今後も継続するべきである。</p>	